

海外での教育

渡航から帰国までの、アメリカ・カナダでの日本の子どもの教育



アメリカ大統領選と教育問題 (4)
教育では、どちらが有利？



教育問題への主張の違い

あと2ヶ月に迫った大統領選挙は、共和党のマケイン候補と民主党のオバマ候補の戦いとなることが、両党の全国大会で正式に決まりました。

教育問題は、どちらの候補もあまり積極的に争点にしていく様子は見られません。しかし、両党の大会では、連邦政府の最も大きな教育プログラムであるNCLB(No Child Left Behind)についての主張がありました。両党ともNCLBを今後も継続すると共通していますが、「保護者の教育を選ぶ権利を大切に、成績の向上しない学校の先生の責任を厳しく問う」共和党に対して、「財政的に学校・先生を援助して、成績を上げようとする」民主党の考えの違いが明確に出ています。

教育についての世論調査

大統領選挙に当たって、国民の意見を探る世論調査が花盛りです。その中から、教育についての世論調査の質問と回答を紹介します。私達も大統領選挙の予想をしてみませんか？

質問1： 民主党・共和党のどちらの政党が、アメリカの公教育の改善に熱心だと思いますか？

	2000年	2004年	2008年
民主党	41%	42%	44%
共和党	29%	35%	27%
わからない	30%	23%	29%

ひとつ目は「政党と教育」についての質問です。

今回(2008年)の結果では、民主党への支持が大きく出ています。しかし、1/3の回答者が「わからない」と意見を保留しているので、結果がどう出るかわかりません。

前2回の調査でも同じような結果が見られますので、「教育については伝統的に民主党が強い」といえるでしょう。しかし、2回共、結果的に共和党・ブッシュ候補が勝っていますので、「教育問題は大統領選の結果に大きなインパクトを持たない」ともみられることも出来ます。

出典：「Education Week」Vol.28, No.1, August 27, 2008

質問2： アメリカの教育の次の内容について、どちらの大統領候補がより良い仕事をするか、と思いますか？

教育政策	マケイン (共和党)	オバマ (民主党)	わからない
教育格差を小さくする	18%	59%	23%
教育のチョイスの拡大	32%	43%	25%
教育の研究奨励	25%	48%	27%
教育への投資増加	28%	48%	24%

今回は、ずばりと両候補についての評価を聞いています。

回答者のほぼ半数が、どの教育政策においてもオバマ氏の方を高く評価しています。

「教育のチョイスの拡大」は共和党が強く主張している内容でマケイン氏が健闘しているものの、オバマ氏がこの政策でも多くの支持を集めています。やはり、個人的な印象でしょうか？ また、質問1で見た政党評価の差よりも、大きな差が現れ、オバマ氏に軍配が上がっています。

大統領選挙が「人気投票」と皮肉られる理由でしょうか？

質問3： NCLBプログラムを定めた法律では、「各州は算数・数学とリーディングの学習基準を定め、児童生徒の学力がその基準に対して十分向上しているかどうか州の統一試験で毎年判定する。もし十分な場合はその児童生徒の学習をサポートしなければならない」と決めています。今年、連邦議会はこのNCLB法を継続・更新するかどうかを判断しなければなりません。あなたは、連法議会はどのようにすべきだと思いますか？

回答	割合
現在のまま継続する	21%
小さな変更で継続する	29%
大幅な変更で継続する	27%
継続はしない	24%

最後は、一番大きな争点となっているNCLBの継続・更新についての世論調査です。プログラムの継続から中止までの4つの意見が均等に分かれています。ここに、ブッシュ大統領がこの8年間積極的に押し進めてきたNCLBが、全米の州で大きく広がらなかった背景が見えます。

Local Controlの政治・社会的背景の強いアメリカで、連邦政府主導の教育プログラムと言えども影響力が小さかったので、急激に変化するグローバル社会に対応した教育に、アメリカは改革できるのか、不安が残ります。(松本)